

房総半島総合開発地域

---

土地分類基本調査

---

富 津

5万分の1

国 土 調 査

千 葉 県

1 9 7 6

# 序 文

本県における近年の都市化、工業化の進展は目覚ましいものがある。

特に首都圏50km圏域の近郊整備地帯における変ぼうは著しく、大規模なプロジェクトや公共投資が集中的に行われた。

しかし、一方では県内の地域格差が広がるとともに、公害、災害等自然環境、生活環境への悪影響がみられるに至った。

今回調査した「富津図幅」地域は、富津地区の埋め立て、東京湾横断橋等の建設も計画されており、今後も一層の発展が期待される地域である。このため、今後の土地利用にあたっては、自然環境の保全と地域の自然的、社会経済的および文化的特性を考慮し、総合的かつ計画的な利用を図ることが必要となっている。

この都道府県土地分類基本調査は、地域の特性に応じた国土の開発、保全等土地の高度有効利用に資するため、昭和45年度から国土調査法に基づき、実施されているものである。国土地理院5万分の1図幅を調査単位に、地形、表層地質、土壌を基本条件とし、あわせて、土地利用現況、土地利用規制等の開発関連条件について、科学的かつ総合的に調査するものである。

本県においては、昭和50年度までに「館山」、「鴨川」、「那古」、「上総大原」、「勝浦」、「茂原」、「大多喜」の7図幅の調査を終了した。本年度の「富津」図幅をもって、昭和45年度に計画した房総半島総合開発地域が完了することとなった。

総合的かつ計画的な土地利用が志向されている今日、この調査結果が、各方面で広く利用されることを望むものである。終わりに本調査に御協力をいただいた関係各位に深く感謝の意を表する次第である。

昭和52年3月

千葉県企画部長

森 審 一

# 目 次

序 文

ま え が き

総 論

|     |           |    |
|-----|-----------|----|
| I   | 位置および行政区画 | 1  |
| II  | 人 口       | 2  |
| III | 地 域 の 特 性 | 3  |
| IV  | 主要産業の概要   | 7  |
| V   | 開 発 の 現 状 | 10 |

各 論

|     |           |    |
|-----|-----------|----|
| I   | 地 形 分 類 図 | 13 |
| II  | 表 層 地 質 図 | 21 |
| III | 土 壌 図     | 26 |
| IV  | 水系・谷密度図   | 29 |
| V   | 傾 斜 区 分 図 | 31 |
| VI  | 開 発 規 制 図 | 33 |
| VII | 土地利用現況図   | 40 |

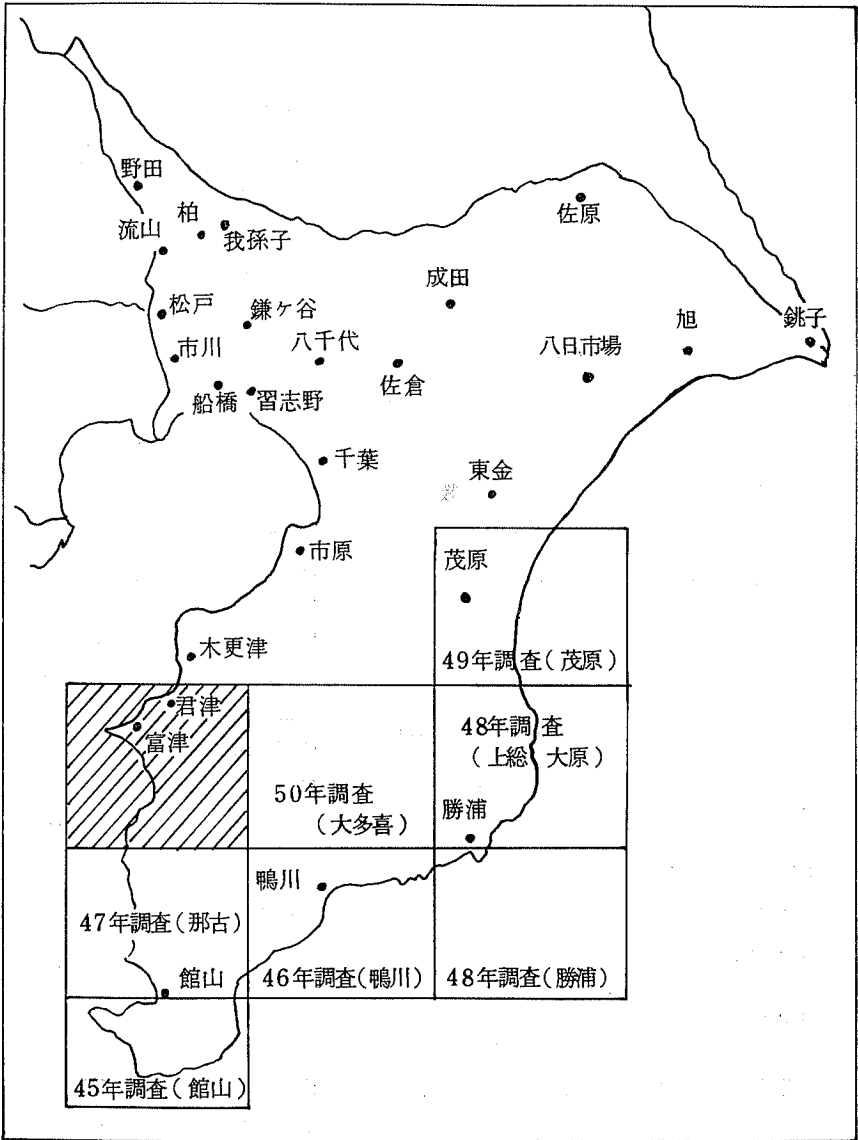
## ま え が き

1. 本調査は、千葉県が事業主体であり、千葉大学の協力を得て行なったものである。
2. 本調査は、自然条件のうち、土地の基本的性格を形成している地形、表層地質、土壌の3要素を基礎とし、これに傾斜区分、水系・谷密度、開発規制、土地利用現況を加味し、その結果を相互に有機的に組合せることによって科学的な土地利用の可能性を分類するものである。
3. 本調査成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査簿である。

調査・成果の作成機関及び担当者

|  |           |              |        |
|--|-----------|--------------|--------|
| 企画調整編集   | 千葉県企画部企画課 | 課長           | 向後 肇   |
|  | 〃         | 課長補佐         | 小林 和夫  |
|  | 〃         | 係長           | 石橋 暎寿  |
|  | 〃         | 主任主事         | 斎藤 隆昌  |
|  | 〃         | 主事           | 藤井 健司  |
| 調整連絡   | 千葉県農林部農産課 | 係長           | 五十嵐 暎三 |
|  | 〃         | 主事           | 奥西 元一  |
|  | 千葉県農林部林務課 | 課長補佐         | 河野 仲   |
| 地形調査   | 千葉大学理学部   | 文部教官         | 川崎 逸郎  |
|  | 〃 教育学部    | 〃            | 白井 哲之  |
| 表層地質調査   | 千葉大学教養部   | 文部教官         | 近藤 精三  |
|  | 〃 理学部     | 〃            | 高井 憲治  |
| 土壌調査   | 千葉県農業試験場  | 地力保全<br>研究室長 | 松本 直治  |
|  | 〃         | 技師           | 渡辺 春朗  |
|  | 〃         | 〃            | 小沢 節子  |
|  | 千葉県林業試験場  | 環境緑化<br>研究室長 | 青沼 和夫  |
|  | 〃         | 技師           | 岩井 宏寿  |
|  | 〃         | 〃            | 石谷 栄次  |
| 開発関連調査   |           |              |        |
| { 傾斜区分調査 }<br>{ 水系・谷密度 }<br>{ 調査 }<br>{ 土地利用現況 }<br>{ 調査 } | 千葉大学理学部   | 文部教官         | 川崎 逸郎  |
|  | 〃         |              | 妙圓 齋 猛 |
|  | 〃         |              | 大山 勝   |
| { 開発規制調査 }   | 千葉県企画部企画課 | 係長           | 石橋 暎寿  |
|  | 〃         | 主事           | 藤井 健司  |

位 置 図



総

論

# I 位置および行政区画

## 1. 位 置

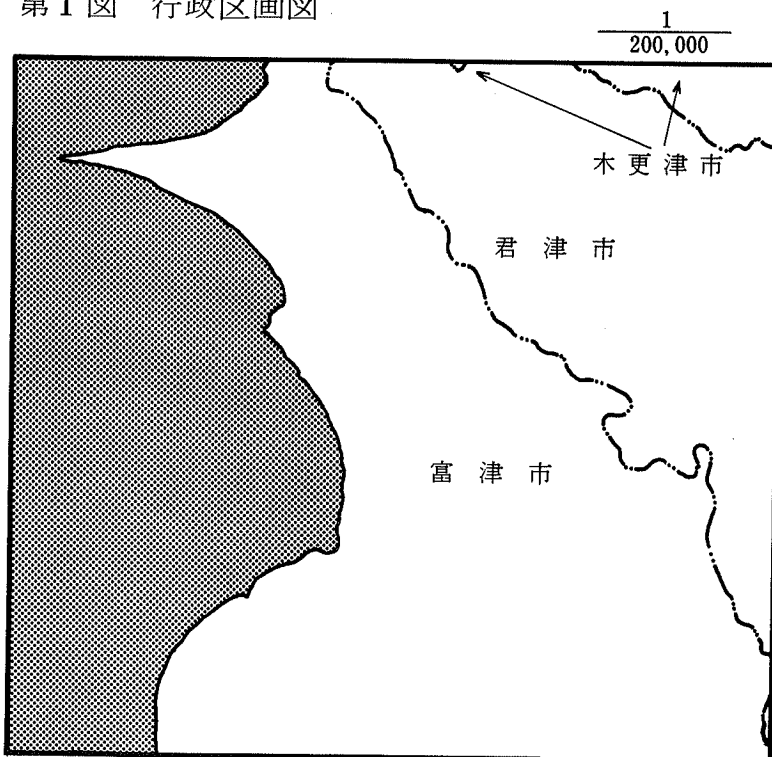
「富津」図幅は房総半島の南部、南房総の北西部に位置している。

経緯度的位置は、東経 $139^{\circ}45' \sim 140^{\circ}00'$ 、北緯 $35^{\circ}10' \sim 35^{\circ}20'$ の範囲である。

## 2. 行政区画

本図幅の行政区画は、富津市の大部分と君津市、木更津市の一部分の3市からなる。

第1図 行政区画面





## II 人口

本県は、昭和30年代後半から毎年著しい人口増加を示しているが、この顕著な地域は県北西部を中心に、首都圏50km圏の近郊整備地帯である。

本地域は、近郊整備地帯の最南端に位置し、従来より農林漁業を中心として発展してきた地域である。近年は京葉臨海工業地帯の南部地域として進展するとともに、国鉄内房線の電化（昭和44年）、複線化（昭和45年）、快速電車による君津駅から東京駅への直通乗入れ（昭和47年）等により、通勤人口の増加がみられ、大きく地域構造が変わろうとしている。

第1表のとおり、人口、世帯数とも増加傾向を示している。

本地域は、富津地区の埋め立て、東京湾横断橋の建設も計画され、今後とも人口の増加は続くものと予想される。

第1表 世帯数、人口、人口の移動状況

| 年次   |      | 昭和45年  | 昭和46年  | 昭和47年  | 昭和48年  | 昭和49年  | 昭和50年  |
|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 木更津市 | 世帯数  | 20,381 | 22,565 | 23,635 | 24,608 | 27,215 | 26,323 |
|      | 人口   | 79,766 | 86,790 | 90,082 | 92,820 | 94,723 | 96,839 |
|      | 移動状況 |        |        |        |        |        |        |
|      | 総数   | —      | 6,834  | 3,292  | 2,738  | 1,903  | —      |
|      | 自然増減 | —      | 1,418  | 1,483  | 1,388  | 1,358  | —      |
|      | 社会増減 | —      | 5,416  | 1,809  | 1,350  | 545    | —      |
| 君津市  | 世帯数  | 15,341 | 16,918 | 17,364 | 17,901 | 18,813 | 18,470 |
|      | 人口   | 70,440 | 75,274 | 77,143 | 78,805 | 81,668 | 76,006 |
|      | 移動状況 |        |        |        |        |        |        |
|      | 総数   | —      | 4,834  | 1,869  | 1,662  | 2,863  | —      |
|      | 自然増減 | —      | 978    | 1,074  | 1,004  | 970    | —      |
|      | 社会増減 | —      | 3,856  | 795    | 658    | 1,893  | —      |
| 富津市  | 世帯数  | 11,895 | 12,760 | 13,251 | 13,475 | 13,706 | 13,734 |
|      | 人口   | 52,041 | 54,281 | 55,441 | 56,070 | 56,789 | 56,649 |
|      | 移動状況 |        |        |        |        |        |        |
|      | 総数   | —      | 2,247  | 1,160  | 629    | 719    | —      |
|      | 自然増減 | —      | 427    | 583    | 561    | 616    | —      |
|      | 社会増減 | —      | 1,820  | 577    | 68     | 103    | —      |

千葉県企画部統計課「千葉県統計年鑑」による

### Ⅲ 地 域 の 特 性

#### 1. 自然的特性

「富津」図幅には、東側の「大多喜」図幅、南側の「那古」図幅にある小起伏山地、丘陵地がつづいており、海岸低地、砂丘地、海食崖等、房総半島にあるすべての地形が本図幅中にみられる。

丘陵地、小起伏山地は、保安林、国有林が多いが、伐採あと地が多く森林の状態は「大多喜」図幅のような森林帯とまではいたっていない。自然林は高宕山付近に多いが、他はすべて植林による森林が多い。農地については湊川、小糸川沿いとその支谷に水田が多く、富津東側の台地面には畑地が集中している。鹿野山周縁では林地と農地が複雑に入組んでいるところが多い。

図幅の北には、三浦半島を指すようにして、鋭い角度で海にのびる富津岬がある。その上空は国内線ジェットの航路で、6,000 m上空からの富津岬はノリヒビの中を泳ぐアカエイの尾かヤリイカのひれのように見える。この富津岬の北側と南側では海の碧さが違う。ここが東京湾と浦賀水道の境である。

#### (1) 地 勢

図幅の北には特徴のある形をした富津岬があり、岬の基部は三角形をした比高10 m程度の高まりが小糸川の南と岩瀬川の間に台地をつくっている。図幅の南は湊川に面して鋸山の北斜面につづく愛宕山と高宕山の山塊があり、ともに開析の進んだ様相を呈している。この2つの山塊は凝灰質砂岩泥岩の互層と火砕岩層からできており、当地域にあるこれらの岩石は割れ目が多く風化の速い崩壊しやすい性質をもっているため非常に細かく開析され、谷密度は16—20という高い地域である。(第6図参照)。

また、図幅の中央には海拔352 mの鹿野山の山塊がほぼ東西方向にどっしりと腰を据えている。しかし、山塊の西側は採石場となり上空からみると抉られたように淡褐色の地肌が見える。

小糸川、岩瀬川、八染川、湊川の各河川とその支流は上記の山地、丘陵地を細かく刻んで流れる。これら各河川のうち、河口付近に三角洲をつくっているのは小糸川のみで湊川、八染川、岩瀬川ともに図幅にあるように河口堆積物らしきものはない。これは沿岸潮流の営力が大きいためである。調査によるとこれら河川の供給された物質と海岸侵食の結果生産された物質が潮流によって北に運ばれ富津岬を延長させる役割を果している。

## (2) 気 候

この地域は、東京湾に面し、気候は海岸線に沿って流れる暖流の影響を受け、寒暖の差の少ない典型的な海洋性気候である。

年間平均気温は15℃前後、年降雨量は1,800mm程度を記録している。

第2表 月別平均気温・降水量

| 種別 \ 月別     | 1   | 2   | 3   | 4    | 5    | 6    | 7    | 8    | 9    | 10   | 11   | 12  | 全年    |
|-------------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-------|
| 平均気温<br>(℃) | 4.7 | 7.3 | 8.4 | 12.4 | 16.7 | 21.0 | 23.3 | 25.2 | 21.8 | 16.8 | 11.0 | 6.5 | 14.6  |
| 降水量<br>(mm) | 2   | 175 | 165 | 135  | 191  | 198  | 213  | 86   | 236  | 226  | 160  | 61  | 1,848 |

銚子地方気象台岩坂観測所 昭和51年資料

## (3) 動 植 物

海岸部と内陸丘陵部それぞれに多彩な動植物が生育している。

海岸部にはクロマツが多く、内陸部は房総半島丘陵地帯の特徴である広葉樹と針葉樹の混生がみられる。コナラ、クリ、シイ、カンシ林等の自然林とスギ、ヒノキ、アカマツ等の人工林が分布し、自然豊かな森林地帯を形成している。

地域的に特筆されるものをあげると、高宕山特に山頂北側斜面一帯にカン、タブ林（高木層：アラカン、ウラジロガシ、タブ等、亜高木層：ツバキ、ヒサカキ等、低木層：アオキ、テイカカズラ等）が自然植生をしている。また林床には、ヒカゲノカズラ、イワヒバ、アオホラゴケ、ミドリワラビ、ナガサキシダ、ビロードシダ等、県下では分布の限られた種類のシダ類が多くみられる。

君津市耕作の里山には、シイ、カンシ林（高木層：シイ、ウラジロガシ、コナラ等、低木層：ヒサカキ、ヤブニッケイ、アオキ等、草本層：テイカズラ、ジャノヒゲ等）がみられる。

近年水田が長い間不耕作状態にされたことにより、ハンノキ林が形成されたところが、富津岬周辺に多くみられる。特に富津市下飯野のハンノキ林（高木層：ハンノキ、クロマツ等、低木層：ガマズミ、クマヤナギ等、草本層：ヨシ、チゴザサ等）はその代表である。

富津岬には、外洋性海浜植物（オニシバ、ハマボウフウ、ネコノシタ、ケカモノハンシ等）、内湾性海浜植物（コウボウシバ、オカヒジキ、スナビキソウ等）、内陸性植物（ハマヒルガオ等）が群落をなし、貴重な植物群を形成している。

また、海岸部の大坪山では、海岸風衝草原がみられる。これは、海に面した急斜面に、ススキ、アズマネザサの草原がありその間にマルバシヤリンバイ、トベラ、ヒサカキ、テリハノイバラなどが群落を形成している。

動物では、高宕山塊一帯に生息するニホンザルが天然記念物に指定されているほか、ノウサギ、リス、イタチ、アナグマ等の哺乳動物が生息している。

また、鳥類は、トビ、キジ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、メジロ、ムクドリ等多種の鳥類が生息しているほか、富津岬を中心とする海岸地帯には、カルガモ、ホオシロガモ、ウミアイサ、ユリカモメ、セグロカモメ等の水鳥がみられる。

なお、シロハネカワトンボが、房総丘陵の東京湾側に多くみられ、高宕山には、ルーミスジミ等の珍しい昆虫が分布している。

## 2. 社会、経済的特性

この地域は、自然条件に恵まれ、農林漁業を主体として発展してきた。

しかし、近年、沿岸部が埋め立てられ、京葉臨海工業地帯の一翼を荷なって進展してきており、国鉄内房線の電化、複線化、東京駅への直接乗入れ等により地域構造が大きく変わろうとしている。

また今後、富津地区の埋め立て、東京湾横断橋等の建設が計画されており、地域の変貌は更に進むものと予想される。

地域の都市化、工業化の進展は、地域の農林漁業に大きな影響を与えている。

今後は地域の特性を活かし農林漁業と調和のとれた、適正かつ有効な振興策を図ることが望まれている。

第3表 就業構造

| 市 町 村<br>産業構造 |                 | 君 津 市  |                | 富 津 市  |                |
|---------------|-----------------|--------|----------------|--------|----------------|
|               |                 | 人 数    | シ ョ ア ー<br>(%) | 人 数    | シ ョ ア ー<br>(%) |
| 総 数           |                 | 35,387 | 100.0          | 26,740 | 100.0          |
| 第 一 次 産 業     | 計               | 6,153  | 17.4           | 7,304  | 27.3           |
|               | 農 業             | 6,057  | 17.1           | 4,615  | 17.3           |
|               | 林 業・狩 猟 業       | 92     | 0.3            | 29     | 0.1            |
|               | 漁 業・水 産 養 殖 業   | 4      | 0.0            | 2,660  | 9.9            |
| 第 二 次 産 業     | 計               | 15,092 | 42.6           | 6,985  | 26.1           |
|               | 鉱 業             | 221    | 0.6            | 298    | 1.1            |
|               | 建 設 業           | 4,290  | 12.1           | 3,044  | 11.4           |
|               | 製 造 業           | 10,581 | 29.9           | 3,643  | 13.6           |
| 第 三 次 産 業     | 計               | 14,142 | 40.0           | 12,451 | 46.6           |
|               | 卸 売 業・小 売 業     | 4,706  | 13.3           | 4,568  | 17.1           |
|               | 金 融・保 険・不 動 産 業 | 681    | 1.9            | 617    | 2.3            |
|               | 運 輸・通 信 業       | 2,757  | 7.8            | 2,554  | 9.6            |
|               | 電 気・ガ ス・水 道 業   | 319    | 0.9            | 173    | 0.7            |
|               | サ ー ビ ス 業       | 4,507  | 12.8           | 3,670  | 13.7           |
|               | 公 務             | 1,103  | 3.1            | 832    | 3.1            |
| 分 類 不 能 の 産 業 |                 | 69     | 0.2            | 37     | 0.1            |

昭和50年国勢調査資料

## IV 主要産業

### 1. 農林業

この地域の農業は、気象条件に恵まれていること、首都圏50km圏に位置するという地の利を得ていることにより有数の農業地帯を形成してきた。

農地は、東京湾に注ぐ小糸川、湊川等の河川流域、海岸平坦部に広がっている。

農業の基幹は水稲作であるが、近年、地域の特性を活かし、トマト、メロン、イチゴ、花卉などのハウス栽培及び夏柑の増殖が盛んとなっている。

また、乳牛、豚等の畜産振興が推進されている。

林業は、従来薪炭の生産を主としていたが、燃料革命にともない、現在はその生産は激減している。

多量に生産されている椎茸の原木として、若干広葉樹が利用されているにすぎない。

しかし、将来の用材林を目指し、樹種転換が行なわれているので、今後木材生産地としての伸展が期待される。

### 2. 水産業

この地域の水産業は、内湾有数の漁場を有し、タイ、スズキ、カレイ、エビ、アナゴ、タコ等、種類も多く、首都圏に対する高級魚の供給地として知られている。

また、ノリ養殖の適地として、今日も中心的な産地であるほか、アサリ、アオヤギ等の貝類も豊富に産出するが、近時の臨海部の埋め立て等により漁場は減少しているが、なお高い生産を維持している。

### 3. 工業

この地域の工業は、第4表のとおり、地場産業としての木材、木製品及び食料品製造が主体であったが、君津地区の埋地地への鉄鋼企業進出は、地域の産業構造を大きく変えた。

また、富津地区の埋め立ても計画されており、本地域の工業化は更に進展するものと考えられる。

第4表 昭和50年産業中分類別事業所、製造品出荷額等一覧表

| 事業中分類   | 事業所数     | 従業者数        |             |             | 製造品<br>出荷額等      |
|---------|----------|-------------|-------------|-------------|------------------|
|         |          | 計           | 常<br>用<br>者 | 個人家族<br>従業者 |                  |
| 君津市計    | 所<br>138 | 人<br>11,619 | 人<br>11,545 | 人<br>74     | 万円<br>57,296,853 |
| 食料品     | 29       | 347         | 328         | 19          | 211,218          |
| 木材・木製品  | 19       | 156         | 148         | 8           | 77,707           |
| 窯業・土石   | 15       | 391         | 387         | 4           | 712,280          |
| 鉄鋼      | 6        | 9,045       | 9,045       | -           | 43,718,211       |
| その他の製造業 | 38       | 274         | 241         | 33          | 104,517          |
| その他     | 31       | 1,406       | 1,396       | 10          | 12,472,920       |
| 富津市計    | 118      | 1,849       | 1,757       | 92          | 1,007,636        |
| 食料品     | 45       | 337         | 286         | 51          | 139,644          |
| 木材・木製品  | 16       | ×           | 145         | ×           | 126,770          |
| 一般機械    | 8        | 295         | 293         | 2           | 189,984          |
| 輸送用機械   | 11       | 103         | 94          | 9           | 98,655           |
| その他の製造業 | 13       | 153         | 138         | 15          | 84,752           |
| その他     | 25       | ×           | 801         | ×           | 367,831          |

その他の欄には、君津市で事業所数6以下、富津市で7以下で製造品出荷額等の少ないもの。(主なものは、電機機械、精密機械、家具装備品など。)

「×」は個々の事業所の秘密がもれるため伏字となっているもの。

#### 4. 商 業

この地域では、内房線沿線の市街地周辺及び住宅団地に人口が集中しており、日常生活用品を中心とした独自の商圈構造を形成しているが、木更津市、千葉市への購買力の流出傾向は強い。

しかし、君津駅周辺の整備に伴う商店街開発も進められており、大型店の進出も予定され、新しい商圈構造を形成しようとしている。

#### 5. 観 光

この地域は、内房の景勝地として広く知られ、南房総における観光の表玄関とも言える地域である。

海岸線は、変化のある海岸美をみせ、南房総国定公園に指定されている。

特に、富津岬は、東京湾上に突出した三角州であり、「関東の天の橋立」と言われている。

白い砂丘が広がり、緑の小松原が続き、展望台からの眺望は絶景である。

内陸部では、鹿野山及び高岩山一帯が南房総国定公園、県立高岩山自然公園に指定されており、観光の中心地をなしている。

鹿野山は、標高 352 m、東京湾を経て三浦半島が一望にでき、絶景を誇る九十九谷が東側に広がっている。

また、高岩山はニホンザルが群棲していることで有名である。

この地域には、更に、大坪山の東京湾観音、鹿野山のマザー牧場等が所在し、昔から著名であった海水浴場、釣場とあわせ、四季を通じ賑わいをみせている。

なお、この地域の後背地には、県立養老溪谷奥清澄自然公園等の優れた観光資源があり、これらと有機的に結びついた道路網整備及び施設設備を進める必要がある。



## V 開 発 の 現 況

### 1. 道路・鉄道

この地域の道路は、国道2路線、主要地方道4路線、一般県道15路線が主要道路として構成されている。

地域的には、国道127号線が南北に縦断し、これを基幹道路としてネットワークが形成されている。

特に木更津富津湊線、君津天羽線、君津丸山線が、国道127号線と結節し、東西に伸びているが、これらの道路は主要道路として、生活、産業及び観光の基盤となっている。

国道16号線は、本地域と県都千葉市、首都東京を結ぶ道路として、重要な役割を果たしている。

また、房総半島を横断し、内房と外房を結ぶ道路として、南房総公園線のⅠ期工事（君津市西栗倉一片倉10km）が昭和53年度完成を目途に進められている。

なお、富津岬と対岸の久里浜を結ぶ東京湾横断橋の建設が計画されているが、この横断橋が地域内の道路と有機的に結合することにより、東京湾岸周辺地域における交通機能の高度化、ひいては県南地域の振興が図られるものと期待されている。

鉄道は、国道127号線とほぼ平行して国鉄内房線が南北に走っている。

国鉄内房線は、昭和44年7月に電化され、昭和45年3月に君津駅まで複線化された。

昭和47年には君津駅から東京駅に快速電車の直接乗入れが可能となり、増々、その重要性を増している。

### 2. 水 資 源

この地域の河川は、小糸川水系に小糸川、江川、郡川、宮下川、馬登川、岩瀬川水系に岩瀬川、小久保川水系に小久保川、染川水系に染川、北上川、湊川水系に湊川、相川、不入斗川、志駒川、高宕川、白狐川水系に白狐川の6水系15河川が流れており、本地域の重要な水資源となっている。

特に、これまでは農業用水として大きな役割を果たしてきたが、臨海部埋立地への工業進出等に伴い、都市用水、工業用水として、その必要性は更に高まっている。

これらの需要に対処するとともに、水資源の有効利用を図るため、小糸川水系に工業用水を目的とした郡ダム（有効貯水量3880千 $m^3$ ）が建設され、湊川水系に農業用水を目的とした戸面原ダム（有効貯水量3860千 $m^3$ ）が建設中である。

### 3. 港湾・漁港

この地域の海岸は、内湾で地形的に恵まれ港湾、漁港の立地に適している。

港湾は、地方港湾として上総湊港がある。その貨物取扱いは水産物が多く、一般貨物はほとんどみられず、むしろ漁港としての色彩が強い。

漁港は、地元漁業の利用を主とする第1種漁港が主体であり、大貫、佐貫、竹岡、萩生の4漁港がある。

また、富津（富津地区、下州地区）漁港が第2種漁港の指定を受けている。

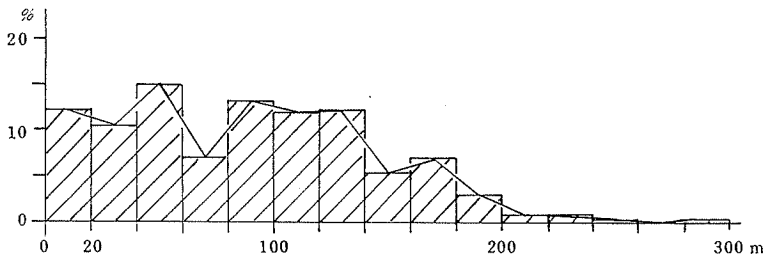
富津漁港及び大貫漁港の属地陸揚量は多く昭和50年の年間陸揚量をみると、富津漁港で3398吨（県内10位、内湾漁港中2位）、大貫漁港で2796吨（県内12位、内湾漁港中4位）となっている。

これら漁港は、本地域の水産業に大きく貢献している。

# 各論

## I 地形分類図

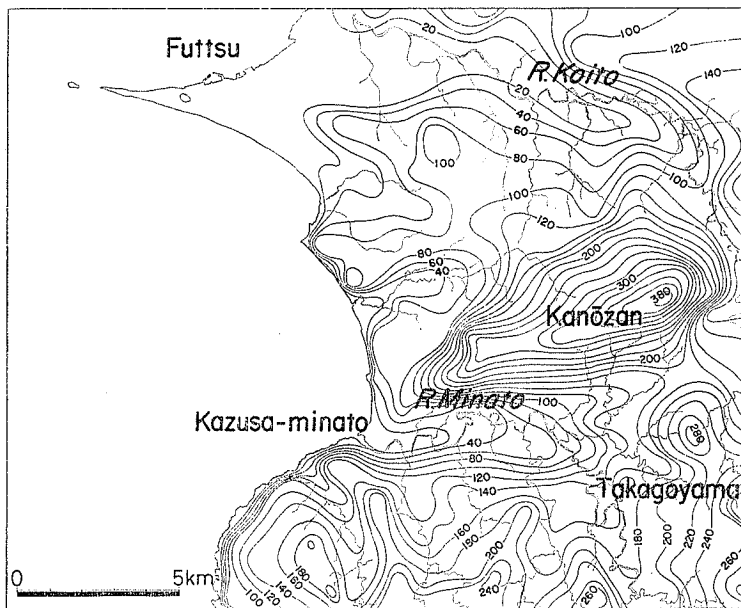
「富津」図幅は房総半島の最も巾の広いところ（いわゆる房総丘陵）の西縁を占める地域である。長く海にのびた富津岬と大地が盛りあがったような鹿野山が本図幅の特徴である。ここには、山地、丘陵地、台地から海食崖、海岸低地、砂浜……等、房総半島にあるすべての地形が集まっている。このような各種の地形の集まりは、土地利用にそのまま反映され、林地、樹園地、施設緑地、農地、集落……等が細かく入り組み、土地利用の現況は複雑なパターンとなっている。起伏量の数値分布をしらべてみると、第2図のようになり大起伏の地域ではなく200 m以下の小起伏のところが全域の90%以上を占めている。非常に細かく侵食されているところである。起伏量は「大多喜」図幅にくらべると大きな違いがある。



第2図 起伏量値の分布

本図幅の中央付近を南北方向に結ぶ上空は前記総論のⅢ地域の特性に記したように国内線の航路にあたる。高度6,000 mの機上からは起伏の大きい鹿野山、鋸山はそれほど高くは見えず、平らな富津岬の方がふくらんで見える。しかし、セスナ機で500 mの高度からみる鹿野山の山容は大地が一挙にふくらみ押しあげられたような形状をしている。残念ながら伐採あと地や集中豪雨時の崩壊が目立ち、山がトラ刈りのようになり景観としては余り良くない。

次に図幅全域の地形の大勢をみるため切峰面図をつくってみると、第3図のような地形となった。この切峯図面にあらわれた「富津」図の特徴は、まず中央に位置する大きな鹿野山の山塊である。南側に急崖を向け、北側は緩く傾く斜面、頂上は平坦で、ほぼ東西方向に長い。北側の緩斜面は、現地でもみる尾根の勾配と同じであって、切峰面の等高線で眺



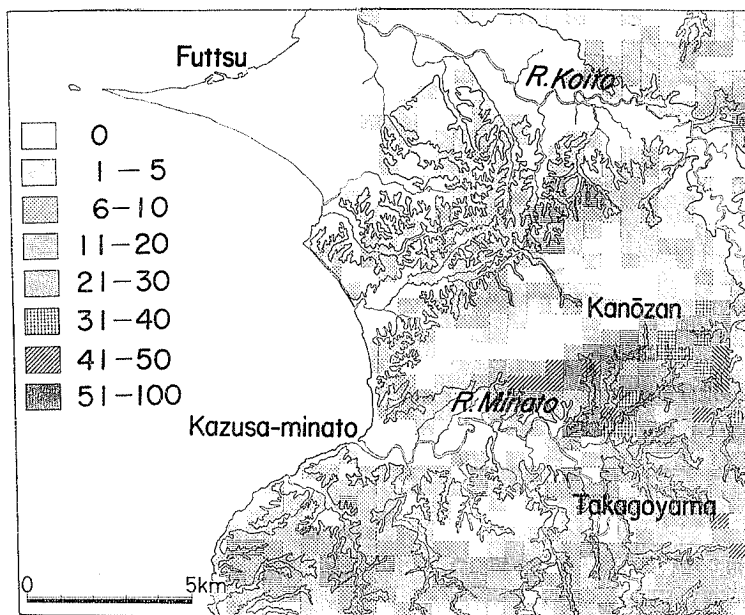
第3図 富津図幅の切峯面図

図幅を縦横等分した方眼の中の最高点をとり、各方眼の中の値から等値線を引いてつくった。等値線（等高線）は20mごとに引いた。図の中央に鹿野山 Kanozan の山塊が南側に急崖を向けて高宕山 Takagoyama 山地と対立している。また上総湊 Kazusa-minato より北側の海岸には比高い小さい急崖が、南側には比高の大きい急崖がつづいていることがわかる。

めるより緩やかである。ここは林地の間の伐採あとと地が日立つところである。切峰面図にはこの鹿野山の山体をとりまいて20~100mの等高線であらわされている緩斜面がひろがっているが、現地で見ると細かく開析され丘陵化した小規模の尾根の集まっているところである。ここは耕地と休地が複雑に入組んだところでもある。

切峰面図の南、湊川南縁、上総湊~高宕山に至る間は、ほぼ東西方向の等高線が配置されている。高宕山地域と「那古」図幅の鋸山北斜面につづく愛宕山地域は海岸地域を除くと切峰面の等高線は緩斜面地域を広い範囲に描いている。現地では急峻に見える山地がこのような形態をとるのは開析されて比高の小さい尾根が集まった地域の特徴であろう。

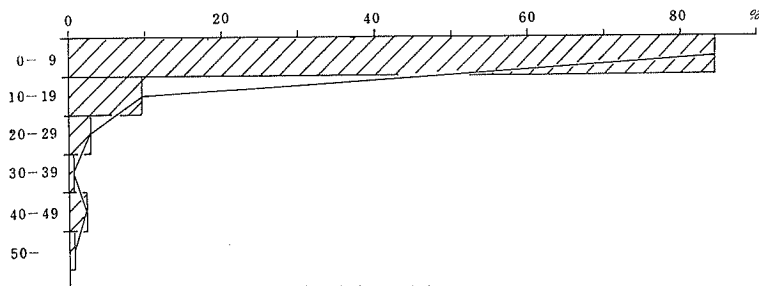
次に、「大多喜」図幅に見られるほどではないが、本地域もまた、昭和45、46年に集中



第4図 昭和45年「関東地方南部の大雨」および昭和46年台風25号による崩壊地分布図

この図は1万3千分の一に撮影された航空写真を実体視して崩壊地を選び出し、現地調査の結果を加えて2万5千万分の一地形図の中に記入した。さらに5万分の一地形図「富津」図幅を縦横40等分した方眼をつくり、各方眼の中に2万5千万分の一地形図に記入した崩壊地を写し入れて、それぞれの方眼の中に入る崩壊地数を数えて階級区分を行ない分布図とした。図の下のパターンの数字はひとつの方眼の中の崩壊地数である。

豪雨の襲来を受けた地域である。セスナ機上からみると、昭和51年現在でも崩壊のあとが各所に残っている（第4図参照）のを見ることができる。とくに鹿野山南斜面地域は表層剝離が広い範囲に発生したところである。ここはまた、「大多喜」図幅において最大の崩壊密度をもつ国本層と梅ヶ瀬層が分布する地域であり、そして谷密度の高い地域でもある。第4図の崩壊地分布図と第5図の崩壊地の比率は、「大多喜」図幅にあるものと全く同じ方法で作成した。



第5図 富津図幅内の崩壊地の比率

崩壊地分布図にある各パターンを数えて比率をとり作成した。縦軸：一方眼内の崩壊地数を階級区分したもの。横軸：図幅全体の中で占める率。

本図幅の地域を高度、起伏、傾斜などの地形要素と水系などを考慮して、つぎのような地形に分類し地形区を設定した。

### I 小起伏山地

I a 高岩山地

I b 愛宕山・氷室山山地

### II 丘陵地

II a 佐貫丘陵

II b 磯根岬丘陵

II c 鹿野山丘陵

II d 九十九谷丘陵

### III 台地

III a 大鷲台地

III b 子安台地

III c 三舟山台地

III d 小糸川台地

III e 岩瀬川台地

III f 八染川台地

III g 湊川台地

III h 白狐川台地

### Ⅲ i 富津台地

## Ⅳ 低地

### Ⅳ a 小糸川低地

### Ⅳ b 富津干潟

各地形区について簡単な説明と補足を行なうと以下のようである。

## I 小起伏山地

### 高岩山地 (I a)

図幅東南隅のこの山地は高岩山(315 m)を中心とする山塊の西半分を占め、東半分は隣接「大多喜」図幅に含まれる。この山地は小糸川と湊川の分水嶺をなしており、本図幅では湊川の支谷が東流する型で山地を開析している。山地の地形はけわしく傾斜は30度を越す地域が大部を占め、高岩山は尖頭状に突出する山容を示す。谷密度も大きい地域である。

### 愛宕山・氷室山山地 (I b)

湊川本流と海岸線でかこまれる地域を愛宕山、氷室山山地として一括する。ここは高度的には260~100mと高岩山山地より低く、傾斜もややゆるく谷密度も小さいので高岩山山地と区分したが、岩石固結度の低い北方の丘陵地に比較すると山腹斜面は急峻であり、谷の分岐も著しく多い。この山地を湊川の支流の志駒川・相川などの谷がぎざみ、白狐川もほぼ平行して北流している。氷室山地萩生では緩斜面を利用してゴルフ場や住宅地が造成されているが、鹿原付近、梨沢付近の緩斜面は地とり地形であり土地利用上注意を要する。また相川・白狐川沿いには砂防工事を要する斜面や河岸が所々にみられる。

## II 丘陵地

### 佐貫丘陵 (II a)

鹿野山丘陵にあって高度200~60mほどの高度に広くひろがる丘陵を佐貫丘陵とした。この丘陵は小糸川・岩瀬川・小久保川・八染川などの諸河流の本支流によって開析され複雑な水系をつくっている。東部では草牛、大鹿、西部では小久保付近に谷密度が多いが、これは長浜層ないし佐貫層の分布地域でもある。東京湾に直接注ぐ河川は河谷内の段丘化が著しいが、北流し小糸川に注ぐ河谷では谷床平野型で下刻が十分におよんでいない。

### 磯根岬丘陵 (II c)

大きくは佐貫丘陵に一括されるが、磯根岬から八染川に至る丘陵は、丘陵頂部の緩斜面が広いこと、開析谷の幅が広くかつ急であること、谷壁の傾斜が急であることなどの点で特色がある。丘陵は直接海浪に侵食され、構成層の長浜層、岩坂層を露出させ平滑な海蝕崖が2 kmにわたって連なっている。



### 鹿野山丘陵（Ⅱc）

本図幅の中央にあって、南側は急斜面で湊川台地・九十九谷丘陵にのぞみ北側は緩斜面で佐貫丘陵に接するこの地塊を鹿野山丘陵とした。高度的には湊川流域の小起伏山地に比適するが、頂部の平坦さや谷密度の少いこと、緩傾斜部分の広いことなどからこれを丘陵地としてあつかった。この丘陵地の東部に鹿野山（352m）があり、西部一帯が鬼<sup>ナガ</sup>泪山（260m）である。この丘陵は市宿砂層からなり武蔵野火山灰層以上の火山灰層で被覆されている。この丘陵地の形成は透水性の大きな市宿砂層が谷を発達させなかったためであると説明されているが、市宿砂層は埋立用の砂として大量に採取され、鬼泪山の西端部、鹿野山東端部などは大規模な地形変更が進行している。また山頂部の緩斜部には現在の水系に直結しない凹地形があるがこれらの一部もゴルフ場などになり地形の改変が行なわれた。丘陵の南斜面は傾斜が著しく大きく、集中豪雨時には多くの崩壊を生じた。（第4図参照）

### 九十九谷丘陵（Ⅱd）

鹿野山丘陵の南にあって高岩山山地までの間をしめる高度200～260mの丘陵地を九十九谷丘陵とした。その名のように樹枝状に入った多くの谷々により著しく起伏に富む地形となっている。観察によれば丘陵の尾根部は多く泥岩からなるようで、砂質部分は凹所をつくり崩壊地をつくっている。

## Ⅲ 台 地

### 大鷲台地（Ⅲa）

小糸川の支谷で若干開析されているが、台地の大部分は木更津側に流れる矢那川、鳥田川の樹枝状谷にきざまれ丘陵化している。この台地は隣接「大多喜」図幅では高位段丘とした八万台に接続するし、また三舟山台地の高位の面に対比できる。

### 子安台地（Ⅲb）

この台地は小糸川北岸に幅狭くみられるものである。その高度は30m前後で、大鷲台地とは開析状態、高度において著しくことなるが、火山灰層をのせる点で高位段丘とした。本図幅においては沖積世形成の火山灰層をのせない台地の区分を重視し、これを細分したため、火山灰層をのせる段丘を高位段丘として一括したためである。子安台地は三舟山台地低位面とともに立川期の形成と推定する。

### 三舟山台地（Ⅲc）

三舟山（138m）の北に小糸川に向って緩斜する台地があり、これを三舟山台地とした。この台地は120m、60m、40mの各高度をもつ台地面に区分することが可能である。いずれも火山灰層をのせており、高位のものは下末吉火山灰層をもつことがわかっているので、下総台地の最南端と推定する。

### 小糸川台地 (Ⅲ d)

小糸川本流に沿って両岸に分布する河成段丘を小糸川台地とした。この台地の幅は市宿付近で500mであるが、塚原で1,200m、君津では3,200mと下流に拡大する。この広い台地面は火山灰層に被覆されておらず沖積期の段丘であるが、現河道に近く比高5~10mの低い段丘が下流域で広くみられ、中流の糠田、大井戸ではこれにより上位に現河道から10~15mの比高をもつ段丘が広く展開する。段丘面上の微起伏が近年の土地区画事業で消失した所が多いのは地形の性質を明らかにする上で惜しまれる。

### 岩瀬川台地 (Ⅲ e)

佐貫丘陵を開析する岩瀬川と小久保川流域の谷はやや広く、高度20mほどの谷床は数m下刻をうけて段丘化している。この段丘は火山灰層に被覆されていない。

### 八染川台地 (Ⅲ f)

鹿野山丘陵北斜面を流下した水流と佐貫丘陵西部を流れたものが、佐貫付近で合流し海岸に向かってひらく小平野をつくっている。この小平野も八染川が下刻を行ない台地化している。

### 湊川台地 (Ⅲ g)

湊川本流にそっては段丘の発達がよく、とくに関付近から下流8kmは段丘面の幅が2kmを越す地域もある。その一方で桜井付近や河口部のように300m程度にせばめられる所があり平面形も複雑である。この台地には火山灰層をとまなるものではなく、沖積世の新しい段丘である。段丘面には蛇行した旧河床の微起伏がかなりよく残されている。また、この段丘はおおむね2段に区分出来るが、蛇行現象が著しく、段化し複雑な過程をたどっているので正確な分類は今後の課題である。なお上位の段丘は現河道から15m以上、下位段丘面とは10mの比高をもち、上位面の分布が広い。

### 白狐川台地 (Ⅲ h)

竹岡に河口をひらく白狐川沿岸には、関山の40mの段丘をのぞくとほぼ20mの高度をもつ台地が広く分布している。なお海岸にそっては、10m前後の海岸段丘とがあり、これは湊川河口部北岸の15mの海岸段丘に対応するものであろう。

### 富津台地 (Ⅲ i)

大堀と大貫を結ぶ線の西にあって東京湾に突出する三角形の地域を富津台地とした。この一見低平な地域は海岸低地にみられがちであるが、小糸川や岩瀬川に沿う部分では明らかに5m以上下刻されており台地となっている。この台地は青堀や青木などの集落がのる北からの分岐砂嘴、大貫、前原などの集落がのっている南からの砂州、これらの上にいる砂丘、砂州にはさまれた潟や砂州間湿地、根崎から川名にぬける旧小糸川河道と思われる

凹地など形成時期、営力を異にする微地形を識別することができる。砂丘は南側海岸に沿って分布し、一部裸出砂丘となっている。

#### IV 低地

##### 小糸川低地 (IV a)

小糸川は台地の中にぎざみこんで流れる地域が広いが、河口から4 kmほど上流の中富付近から谷底をひろげ自由蛇行するようになり堤防もつくられている。沖積台地から5 mほど低いこの部分を小糸川低地とし氾濫原の性格をもつものとした。

##### 富津干潟 (IV b)

富津岬の北側沿岸には、幅平均1.5 kmに達する潮汐平地がひろがっている。この潮汐平地には計画面積1,325 haにおよぶ埋立造成が予定されている。一部は工事が終了しているが、当初計画の52年度80%完成予定は遅れている。富津岬先端の第1海堡は関東大地震の際に州がのびて接続したが、その後分離してしまった。

(千葉大学文部教官 川崎 逸郎)  
" " 白井 哲之)

## Ⅱ 表 層 地 質 図

本地域は安房層群、豊岡層群、上総層群、下総層群の地層と関東ローム層および低地を構成する沖積層からなり、その層序は第5表のとおりである。

安房、豊岡層群は図幅の南縁に東西方向に分布し、東西方向に軸をもつ背斜、向斜構造が特徴的であり、また南北方向と東西方向の断層によって地質構造が複雑化している。

上総層群は湊川付近から小糸川付近におよぶ図幅の大部分を占め、東西から東北東—西南西方向に地層が伸び、ほぼ南から北へと順次新しい地層が重なり、全体的に北傾斜の単斜構造を示している。豊岡層群とは黒滝不整合で境する。

下総層群は図幅の北東端の台地および富津市東谷付近に分布し、上総層群に不整合で重なっている。

関東ローム層は鹿野山、三舟山および図幅北東端の台地の表面をおおって分布している。

第 5 表 層 序

| 時 代   | 層 群   |             | 地 層 ( 西 ← → 東 ) |               |                 |
|-------|-------|-------------|-----------------|---------------|-----------------|
|       | 沖 積 世 |             | 沖 積 層           |               |                 |
| 第 四 紀 | 洪 積 世 | 関 東 ロ ー ム 層 | 立 川 層           | 武 蔵 野 ロ ー ム 層 |                 |
|       |       | 下 総 層 群     | 成 田             | 木 上 岩 橋 層     | 下 清 川 層         |
|       |       |             |                 | 相 模           | 上 瀬 泉 又 地 蔵 堂 層 |
|       |       | 上 総 層 群     |                 |               | 周 南 層           |
| 第 三 紀 | 鮮 新 世 | 三 浦 層 群     | 岩 坂 層           | 長 南 層         |                 |
|       |       |             | 栗 東 坂 高 十 竹 層   | 笠 倉 層         |                 |
| 第 三 紀 | 中 新 世 | 三 浦 層 群     | 秋 生 層           | 安 野 層         |                 |
|       |       |             | 安 房 層           | 清 澄 層         |                 |

沖積層は海岸平野および小糸川、染川、湊川、白狐川などと、その支流の谷底を構成している。

## 1. 未固結堆積物

### 1-1 泥がち堆積物 (m)

泥がち堆積物は、小糸川、岩瀬川、染川、湊川、白狐川沿いの水田地域および丘陵地を刻む谷の表層部を構成している。

### 1-2 砂がち堆積物 (s)

砂がち堆積物は、富津および上総湊付近の海岸の浜砂および砂丘を構成し、また、小糸川下流地域の砂堆として分布する。

### 1-3 砂<sub>1</sub> (s<sub>1</sub>)

灰褐～暗灰色の細粒砂またはシルト質砂であって、狭義の成田層群の下部の清川層に相当する。大鷲台地において、関東ローム層の下に存在する。

### 1-4 砂<sub>2</sub> (s<sub>2</sub>)

淡黄灰～黄灰色の中粒砂からなり、下部下総層群の瀬又層に相当する。大鷲台地の周縁において、清川層の下位、地藏堂層の上位にでる。

### 1-5 砂<sub>3</sub> (s<sub>3</sub>)

黄褐～黄灰色の細粒～中粒の砂であって、軽石層、スコリア層を挟み、地藏堂層と呼ばれる。大鷲台地の周縁の崖および傾斜地に分布する。

### 1-6 泥<sub>1</sub> (m<sub>1</sub>)

暗青灰色の泥からなり、軽石層を挟んでいる。泉谷層と呼ばれ、大鷲台地の縁辺に地藏堂層と金剛地層の砂層の間に数mの厚さで存在する。

### 1-7 砂<sub>4</sub> (s<sub>4</sub>)

淡黄灰色の $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{8}$ mm程度の細粒砂を主体としており、金剛地層に相当する。下部の笠森層とは不整合で境している。

### 1-8 砂泥互層 (altsms)

東谷層の上部に相当し、富津市東谷付近にはほぼ南北に伸びる。ゆるい向斜構造をなし分布する。東谷層は下位の上総層群とは不整合である。岩相は黄灰～灰色の雲母質シルトと、細粒～中粒砂の互層であり、最大20mの厚さをもっている。

### 1-9 砂<sub>5</sub> (s<sub>5</sub>)

東谷層の中部に相当し、板状の斜交葉理の発達する黄灰～灰褐色のスコリア質中粒～粗粒砂で、ときに礫を挟んでいる。地層の厚さは10～20mである。

1—10 泥<sub>2</sub> (m<sub>2</sub>)

東谷層下部に相当し、暗灰色のシルトまたはシルト質砂であって、地層の厚さは5~10mである。この中に軽石層 (Hy<sub>4</sub>) を挟み、地蔵堂層中の軽石層に対比される。

1—11 砂<sub>6</sub> (s<sub>6</sub>)

青灰~灰白色のシルトを挟む、赤褐~褐色の細粒砂であって上総層群最上部の周南層と呼ばれ、笠森層と指交している。富津市西谷から小糸川南岸の丘陵地帯にかけ分布している。

## 1—12 砂礫 (g)

灰褐~赤褐色の中粒~粗粒の砂および礫からなり、地層の厚さは5~30mある。この付近では長浜層と呼ばれ万田野層に対比される。標式地の富津市長浜および磯根岬丘陵、佐貫丘陵の比較的高位置に分布している。

## 2. 半固結~固結堆積物

2—1 砂岩<sub>1</sub> (ss<sub>1</sub>)

灰色の泥質細粒砂岩であって、笠森層と呼ばれる。本地域では非常に薄く、周南層、佐貫層、長浜層に移化している。

2—2 泥岩<sub>1</sub> (ms<sub>1</sub>)

暗灰~青灰色のシルト~粒土岩であって、ときに砂を挟み、層間異常現象もよくみられる。地層の厚さは約90mで、佐貫層と呼ばれ、この層からは軟体動物および有孔虫類等の化石を産し、その種類から陸棚の亜浅海~下浅海帯の堆積物と考えられている。

2—3 砂岩泥岩互層<sub>1</sub> (altms<sub>1</sub>)

暗灰色の砂および泥質岩の頻互層であって、長南層に相当する。本地域では鹿野山の北東域に僅かに分布するだけである。

2—4 砂岩<sub>2</sub> (ss<sub>2</sub>)

灰色~暗灰色の斜交葉理の発達する、中粒~粗粒砂であって、小礫~中礫をまじえ、ときに軽石粒を含んでいる。全体の厚さは約400mになり、模式地の君津市市宿を始め広く分布し、鹿野山全域において、関東ローム層の下に存在する。

2—5 砂岩<sub>3</sub> (ss<sub>3</sub>)

淡灰色の細粒~中粒の砂層で、岩坂層の上部に相当し、鹿野山の南縁に沿い東西に伸びて分布し、市宿層の下位に産出する。

2—6 砂岩泥岩互層<sub>2</sub> (altms<sub>2</sub>)

細砂、シルトの互層からなり、上総湊駅北東の岩坂付近から加藤、駒場を経て、鹿野山

南斜面に分布する。

### 2—7 砂岩泥岩互層<sub>3</sub> (altms<sub>3</sub>)

上部は泥から、下部は中粒～粗粒赤褐色砂と青灰色泥岩との互層であって、上部は粟倉層、下部は坂畑層に相当し、この間に東日笠層の砂岩が挟まれている。

### 2—8 砂岩<sub>4</sub> (ss<sub>4</sub>)

灰褐～赤褐色の中粒～粗粒砂岩を主とし、ときに砂礫層を挟んでいる。走向N80～85°Eで、8°～20°Nの傾斜を示しており、東日笠層に相当する。

### 2—9 泥岩<sub>2</sub> (ms<sub>2</sub>)

灰白～青灰色の泥岩で、ときに凝灰岩を挟んでいる。湊川上流の高溝を標式地とし、EW～N70°Wの走向をもち10°～25°Nの傾斜を示し、高溝層と呼ばれる。

### 2—10 砂岩<sub>5</sub> (ss<sub>5</sub>)

灰褐色の細粒～中粒の凝灰岩質砂岩であって、ときにシルト、礫を挟む、十宮付近の海岸から東方に帯状に分布し、ほぼN80°Wの走向、10°～20°Nの傾斜をもっており、十宮層と呼ばれる。

### 2—11 泥岩<sub>3</sub> (ms<sub>3</sub>)

塊状の灰白色泥岩を主とし、ときに10cm内外の凝灰岩、スコリヤを挟む。厚さは280m以上におよび、湊川支流の志駒川の稲子沢を標式地としほぼ東西に伸びた分布を示すが、褶曲構造および断層によってかなり変化している。

### 2—12 砂岩泥岩互層<sub>4</sub> (altms<sub>4</sub>)

一般的に泥岩がちの砂岩泥岩互層で、上部で凝灰岩を挟むことが多い。本地域では志駒川以東に分布し、萩生火砕岩層とは指交している。

### 2—13 砂岩<sub>6</sub> (ss<sub>6</sub>)

褐色～暗灰色の中粒砂岩で、スコリヤ、軽石を挟んでいる。清澄砂岩層に相当し、相の沢付近から千畑礫岩層の上下に存在した砂岩が東方へ伸び、高宕山南方で急に層厚を増している。

### 2—14 礫岩 (cg)

模式地の志駒川千畑では、粗粒砂と礫とが斜交葉理をなし厚く堆積している。礫は古生層起源のチャート、砂岩および粘板岩などで、円磨された細礫が主体となる。

東方に伸び中倉付近で清澄層中に尖滅し、西方では、相の沢、上白狐付近で岩相が粗粒砂岩となるが、さらに西方の打越の海岸で粒度が大となり径数cmにもおよぶ礫岩となる。

### 2—15 泥岩<sub>4</sub> (ms<sub>4</sub>)

一般に灰白～暗灰色の塊状泥岩であり、ときどき数m～数十mの砂岩～凝灰質砂岩を挟

んでおり、天津層に相当する。

図幅南端部に東西方向に伸びて分布するが、褶曲、断層に伴い、走向はEW～N40°Wと変化し、傾斜も大きく変わっている。

#### 2—16 砂岩<sub>7</sub> (ss<sub>7</sub>)

凝灰質砂岩からなり、軽石、スコリアなどを挟む地層で、天津泥岩層中部の部層として考えられ、湊川上流の宇藤木付近に分布することから、宇藤木凝灰質砂岩と呼ばれる。

#### 2—17 頁岩 (sh)

灰褐色の硬い頁岩を主とし、細粒～中粒砂岩を挟み、天津層の下位にくる木の根層に相当する。本地域では、周囲を断層で境され、志駒川上流の上郷に小分布を示すにすぎない。

### 3. 火山性岩石

#### 3—1 ローム<sub>1</sub> (L<sub>1</sub>)

関東ローム層のうち立川ローム層のみから構成されている部分で、小糸川に面する低位の段丘を構成している。

#### 3—2 ローム<sub>2</sub> (L<sub>2</sub>)

関東ローム層として、立川ローム層、武蔵野ローム層から構成され、武蔵野ローム層の下底近くに鍵層として東京軽石層を含んでいる。

鹿野山地域および三舟山北東地域、君津市箕輪付近などに分布している。

#### 3—3 ローム<sub>3</sub> (L<sub>3</sub>)

関東ローム層として、立川ローム層、武蔵野ローム層、下末吉ローム層から構成され、下末吉ローム層中の小原台軽石層など鍵層が含まれる。

図幅北東端の大鷲台地および三舟山などに分布している。

#### 3—4 凝灰岩<sub>1</sub> (tr<sub>1</sub>)

火山礫、スコリア、軽石などを含む凝灰質岩石で1cmぐらいの円磨された礫と粗粒砂よりなる。竹岡層と呼ばれ、竹岡海岸から東方へ帯状に分布し、また、高岩山付近では、向斜構造の中心部に独立して露出している。

#### 3—5 角礫凝灰岩<sub>2</sub> (tr<sub>2</sub>)

スコリアまたは火山角礫を大量に含んだ凝灰岩がおもで、灰色の泥岩層を挟んでいる。萩生火砕岩層に相当し、模式地の萩生海岸では粗粒で斜交葉理がみられるが、東方へいくほど細粒となっている。安野層とは指交している。

(千葉大学文部教官 近藤精造)



### Ⅲ 土 壤 図

#### 1. 山地・丘陵地（主に林地）の土壤

本図幅における山地・丘陵地の土壤は、その特徴から大きく2つの地域に分けることができる。

前者は湊川・高宕川以南の地域であり、主に第三紀の泥岩を母材とした粘質な土壤が多い。その大部分は乾性褐色森林土壤の江田1統と適潤性褐色森林土壤の江田2統であるが、このほか海岸部では残積性未熟土壤の白浜統、富津市岩井原付近には礫の混入した褐色森林土の天津1統・2統がみられる。そして、山頂および起伏のなだらかなところは小面積ではある火山灰が堆積している。

後者は、湊川・高宕川以北の地域であり、ごくわずか三紀砂質土がふくまれるが、ほとんどが黒ボク土と第三紀の砂岩や泥岩を母材とした壤質な土壤である。火山灰は、鹿野山丘陵、大鷲台地、子安台地、三舟山台地、小糸川台地に広範囲に堆積しており、その多くは黒ボク土の八街統と淡色黒ボク土の上砂統である。鹿野山丘陵と大鷲台地では、このほかごくわずかであるが厚層黒ボク土の武州統、文違統がみられる。黒ボク土の周辺部には、火山灰と第三紀の風化した土壤が混合した上岩入1統・2統が広く分布し、その外側には褐色森林土の江田1統・2統がひろがっている。一部富津市神明山には粗粒残積性未熟土壤の水岡1統がみられ、山頂には火山灰が堆積している。

図幅全体を通して乾性褐色森林土壤が多く、適潤性褐色森林土壤は少ない。鹿野山、鬼泪山は県下有数の林地地であるが、この造林地では黒ボク土の堆積しているところは少なく、火山灰と第三紀の風化した土壤が混合した褐色森林土の上岩入統が広くみられる。しかし、乾性褐色森林土の上岩入1統の一部では、半固結状態のところもみられ、造林木の生育もわるいようである。

#### 2. 低地（主に畑地・水田）の土壤

富津台地土壤の大部分を占めるのは、粗粒褐色低地土壤の旭統であり、おもに畑地として利用されている。旭統は、地下水の影響により斑鉄が存在することが多く、また砂丘未熟土壤に比べ、より土壤化の進んだ段階にあると考えられる。畑地としての面積は黒ボク土が比較的多く、図幅北部の大鷲台地・子安台地・三舟山台地・図幅中央の佐貫丘陵・鹿野山丘陵、図幅南部の高宕山山塊・愛宕山山塊など広い地域に亘るが、これらの地域の中で標高のやや高い所におもに分布する。黒ボク土では風積で表層に腐植層のある八街統が最も典型的であるが、鹿野山丘陵の陵線に沿って腐植の特異的集積の認められる武州統が

点在する。これら風積性の黒ボク土の周縁部には、水の営力によって火山灰以外の母材が混入して再堆積したと考えられる諸持統・船木統・香西千統などの黒ボク土が存在する。佐貫丘陵西部及び岩瀬川台地には第三紀系の壤粘質土壌で斑鉄のある細野統が存在し、高宕山山塊・愛宕山山塊には同じく第三紀系壤粘質土壌で斑鉄のない江田1統が存在する。これらは果樹園として利用されることが多い。

本図幅の水田は、小糸川及び湊川の二つの大河川の沖積面、これら河川の支流及び数条の小河川により開析された谷津、海成の富津台地・富津干潟低地に存在する。大河川に沿った排水の良い所に灰色台地土が分布し、河川より離れるに従い、また谷津が狭小となるに従いグライ化度の強い土壌が分布する。

水田土壌の土性には表層地質の影響が明らかに表われている。すなわち、鹿野山丘陵以北の水田土壌は大部分が中粒質であるが、一方湊川以南では細粒質の土壌が大部分を占めており鹿野山南部にあっても九十九谷丘陵及び鹿野山丘陵西南部に接する水田の土壌はそれぞれ東鬼無里層及び岩坂層の影響で中粒質の土性を示している。また富津干潟低地・富津台地には海成砂質土の水田が分布し、小糸川流域の下流には河成砂質土の水田が存在する。

(農業試験場 小沢 節子)  
(林業試験場 石谷 栄次)

第6表 土 壤 統 一 覧

| 土 壤 群    | 土質統名      | 色<br>グライ | 腐植層序     | 礫 層      | 酸 化<br>状態 | 土性 (注) | 母 材     | 地積様式    | 備 考                   |                    |
|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|--------|---------|---------|-----------------------|--------------------|
| 未 熟 土    | 残積性未熟土質   | 白浜統      | YR/YR    | 腐植を含む層あり | なし        | なし     | 粘一粘石    | 第三紀     | 残積                    |                    |
|          | 粗粒残積性未熟土質 | 水回1統     | YR/YR    | 腐植層なし    | なし        | なし     | 砂一砂     | 第三紀     | 残積・崩行                 |                    |
|          | 砂丘未熟土質    | 神宮砂統     | YR/YR    | 腐植層なし    | なし        | なし     | 砂一砂     |         | 風積                    |                    |
| 黒ボク土     | 厚層黒ボク土質   | 武州統      | YR/YR    | 全層腐植層    | なし        | なし     | 塊一塊粘    | 火山灰     | 風積                    |                    |
|          |           | 文達統      | YR/YR    | 全層腐植層    | なし        | なし     | 塊一塊粘    | 火山灰     | 風積                    |                    |
|          |           | 講持統      | YR/YR    | 全層腐植層    | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 火山灰+洪積等 | 水積                    | 風積・再堆積             |
|          |           | 八街統      | YR/YR    | 表層腐植層    | なし        | なし     | 塊一塊粘    | 火山灰     | 風積                    |                    |
|          |           | 船木統      | YR/YR    | 表層腐植層    | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 火山灰+洪積等 | 水積                    | 風積・再堆積             |
|          |           | 香西4統     | YR/YR    | 腐植層なし    | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 火山灰+洪積等 | 水積                    | 風積・再堆積、火山灰層50cm以下  |
| 褐色腐植土    | 乾性褐色森林土質  | 上砂統      | YR/YR    | 腐植を含む層あり | なし        | なし     | 塊一塊     | 火山灰     | 風積                    |                    |
|          |           | 岩切統      | YR/YR    | 腐植を含む層あり | なし        | なし     | 塊一砂塊    | 火山灰/第三紀 | 風積                    | 火山灰層50cm未満         |
|          |           | 香西1統     | YR/YR    | 腐植層なし    | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 火山灰+洪積等 | 水積                    | 風積・再堆積、強、まづち       |
|          |           | 江田1統     | YR/YR    | 腐植を含む層あり | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 第三紀     | 残積・崩行                 |                    |
|          | 褐色森林土質    | 上岩1統     | YR/YR    | 腐植を含む層あり | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 火山灰+第三紀 | 残積・崩行                 |                    |
|          |           | 天津1統     | YR/YR    | 腐植を含む層あり | あり        | なし     | 塊粘一塊粘   | 第三紀     | 残積・崩行                 |                    |
|          |           | 細野統      | YR/YR    | 腐植層なし    | なし        | あり     | 塊粘一塊粘   | 第三紀     | 水積                    | 風積・再堆積、強、まづち<br>低級 |
|          |           | 香西3統     | YR/YR    | 腐植層なし    | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 火山灰+洪積等 | 水積                    |                    |
|          |           | 江田2統     | YR/YR    | 腐植を含む層あり | なし        | なし     | 塊粘一塊粘   | 第三紀     | 崩積・崩行                 |                    |
| 湿性褐色森林土質 | 上岩2統      | YR/YR    | 腐植を含む層あり | なし       | なし        | 塊粘一塊粘  | 火山灰+第三紀 | 崩積・崩行   |                       |                    |
|          | 天津2統      | YR/YR    | 腐植を含む層あり | あり       | なし        | 塊粘一塊粘  | 第三紀     | 崩積・崩行   |                       |                    |
| 褐色低地土    | 堆の木統      | YR/YR    | 腐植層なし    | なし       | なし        | 塊粘一塊粘  |         | 水積      | 河成                    |                    |
|          | 粗粒褐色低地土質  | 旭統       | YR/YR    | 腐植層なし    | なし        | あり     | 砂一砂     |         | 水積                    |                    |
| 灰色低地土    | 細粒灰色低地土質  | 下布麻統     | 灰褐色      | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
|          |           | 米沢統      | 灰色       | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
|          | 灰色低地土質    | 村上統      | 灰褐色      | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
|          |           | 平三統      | 灰色       | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
| グライ土     | 粗粒灰色低地土質  | 麩統       | 灰色       | —        | なし        | あり     | 一砂      |         | 水積                    |                    |
|          | 細粒グライ土質   | 矢田統      | グライ      | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
|          |           | 夷崎統      | 強グライ     | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
|          |           | 平島統      | 強グライ     | —        | なし        | なし     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
|          | 粗粒グライ土質   | 馬立統      | グライ      | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
|          |           | 黒部統      | 強グライ     | —        | なし        | あり     | 一強粘     |         | 水積                    |                    |
| 下総統      |           | 強グライ     | —        | なし       | なし        | 一強粘    |         | 水積      |                       |                    |
| 黒泥土      | 水沢統       | グライ      | —        | なし       | あり        | 一砂     |         | 水積      |                       |                    |
|          | 川上統       | 強グライ     | —        | なし       | あり        | 一砂     |         | 水積      |                       |                    |
|          | 一宮統       | 強グライ     | —        | なし       | なし        | 一砂     |         | 水積      |                       |                    |
| 黒泥土      | 布佐M統      | 強グライ     | —        | なし       | あり        | 一強粘    |         | 水積・集積   | 50~80cmに泥炭質もしくは泥炭層が出現 |                    |
|          | 吉田M統      | 強グライ     | —        | なし       | なし        | 一強粘    |         | 水積・集積   |                       |                    |

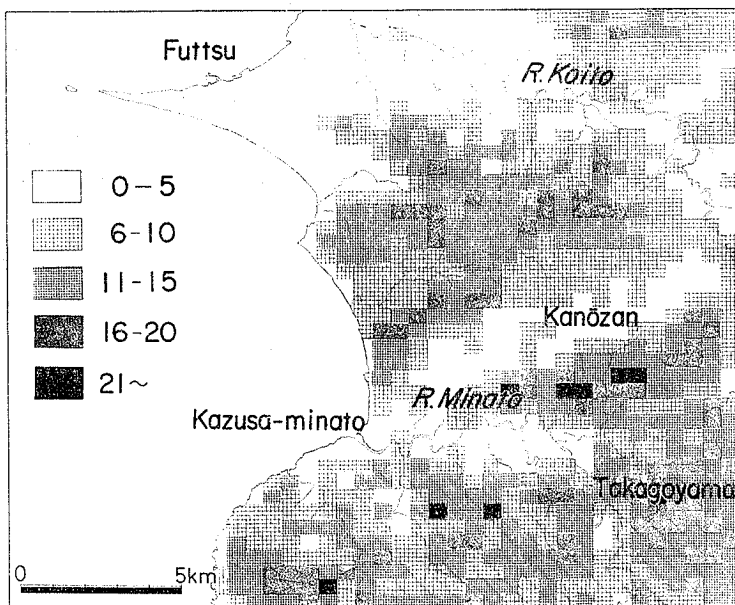
(注) 土性：(一)表層、(二)表層以下。

## IV 水系および谷密度図

本図幅内の主要な水系は、北から小糸川、岩瀬川、小久保川、八染川、湊川、白狐川がある。他に木更津方向への鳥田川・矢那川の流域、蕨生・金谷の海岸に注ぐ小流がある。

これらの諸河川の一般的流路方向は、小糸川、湊川本流にみられるように、南北方向と東西方向をとっている。東西方向は地質構造の支配を反映しており、南北方向は地形の一般傾斜方向に応ずるもので、北流する支流は長く、南流するものは短い傾向がある。また各河川とも蛇行が著しく、沿岸に河成台地の発達が良い。しかし三角州など河成低地の分布はきわめて狭い。この地域は、昭和45年7月および昭和46年9月に集中豪雨をうけ、河岸の侵食や斜面崩壊が生じたが、これを機に河川の改修が進められてきた。

小糸川は本図幅内では、高宕山東斜面、九十九谷東斜面、大鷲台地南斜面のほか鹿野山



第6図 谷密度分布図

図幅を縦横に40等分した方眼の中で作業規程にしたがって谷密度をしらべ階級区分を行ない分布図としたもの。図に示してあるパターンはそれぞれの方眼の中にある谷密度を数値としてあらわしたものである。

丘陵東部の北斜面、佐貫丘陵東部、三舟山台地をも集水している。この川全体としては、中下流域が本図幅にかかっているが、河口は隣接「木更津」図幅である。上流の「大多喜」図幅にある三島・豊英のダムのような大規模な利水施設はないが、各所で取水利用されている。谷密度からみると、高度の高い鹿野山丘陵の値は小さく、佐貫丘陵は大きい。これは鹿野山丘陵を構成する市宿砂層の透水性が大きいためであると説明されている。

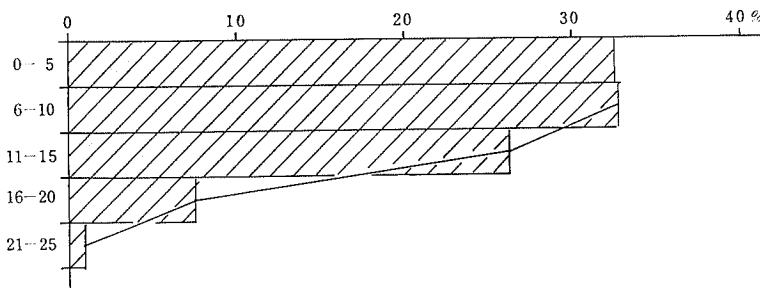
岩瀬川・小久保川・八染川はいずれも佐貫丘陵西部を西流し東京湾に注ぐ、本流の長さ4～8 kmの短小な河川で下流部は下刻が進んで沿岸に段丘地形をつくっている。各河川の分水界に近い小久保付近の谷密度は大きく開析が進んでいる。

湊川は本図幅の南半部に流域をひろげており、鹿野山南斜面、九十九谷丘陵、高岩山西斜面のほか、愛宕山、氷室山山塊を分断して南流する志駒川、荒木谷、相川の各流域を併せる。鹿野山南斜面には短小ではあるが急傾斜な谷の分岐の著しい小谷が多く、谷密度は著しく大きい。九十九谷丘陵はその名称のように樹枝状に分岐した小谷が多く発達し、谷密度21以上の地域となっている。高岩山西斜面も谷密度は大きい。志駒川などの支流では谷密度は比較的小さいが、萩生層の分布する氷室山西斜面や相川付近で谷密度が増す。

白狐川は支谷の発達が比較的小さいが、上流部で多くの小谷が分岐している。

大鷲台地は木更津方面に流下する鳥田川・矢那川の上流河谷によって樹枝状に開析されている。富津台地には、小糸川の旧河道と推定される凹地があるがまとまった水系となっていない。

谷密度の数値分布をみると第7図のようである。上総丘陵の核心地を含む隣接「大多喜」図幅に比較して、沿岸部や河川下流部をもつこの地域の谷密度は小さい。10以下が66%を占め、16以上は9%にすぎない。丘陵地があるにもかかわらず、このように値が小さいのは、鹿野山丘陵のように侵食がこれから急速に進行することを示しているといえよう。



第7図 谷密度の数値分布図

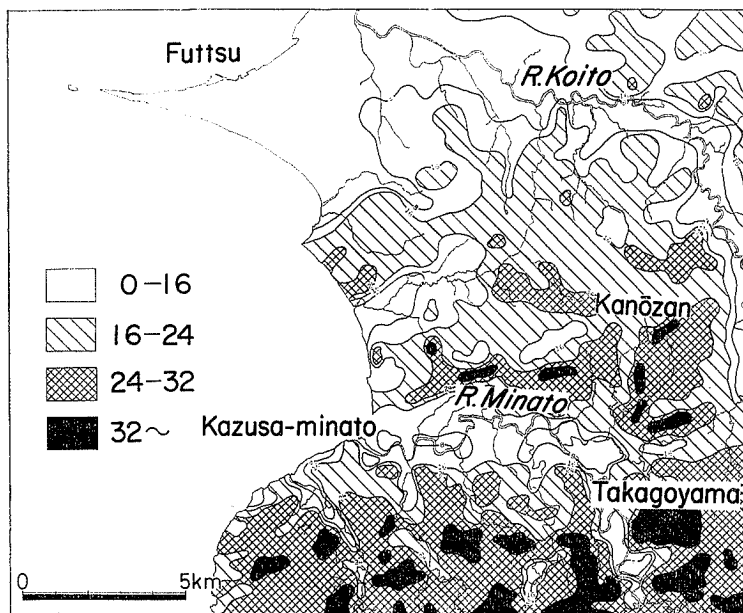
(千葉大学文部教官 川崎 逸郎)  
 ( " " 白井 哲之)

## V 傾斜区分図

本図幅の傾斜区分は区分図に示したが、傾斜分布の概要を知るため第8図の傾斜分布図をつくった。

急傾斜地とみなすことの出来る  $32^\circ$  以上の地域は高岩山西斜面、志駒川流域、相川流域、白狐川流域など小起伏山地地域と鹿野山丘陵南斜面から九十九谷丘陵にかけての地域であり、その大部分は湊川流域に属している。とくに鹿野山丘陵南斜面は丘陵頂部の緩斜面との対照が著しく、傾斜が地形の特徴をつくっている。崩壊地もこの斜面に多く発生した。

$24^\circ \sim 32^\circ$  の地域は上記の急傾斜地をとりまくように、小起伏山地地域、鹿野山丘陵南斜



図幅を縦横40等分した方眼の中の代表的傾斜地点を読みとり等値線を引いたもので、図幅全体の傾斜の傾向や特定の傾斜の分布をみることができる。図の下位にあるパターンの黒地は $32^\circ$ 以上、斜め格子は $24^\circ \sim 32^\circ$ 、斜線は $16^\circ \sim 24^\circ$ 、無地は $0^\circ \sim 16^\circ$ の範囲をあらわしたもの。

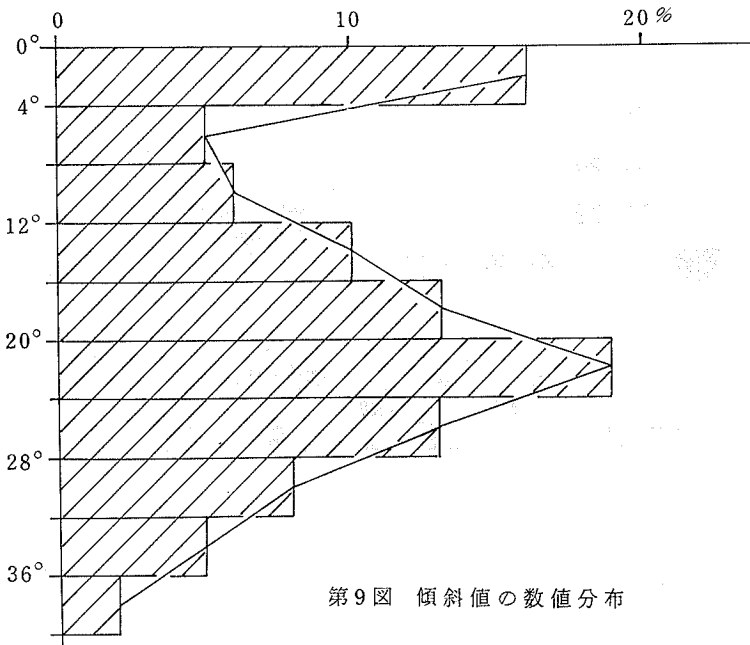
面から九十九谷地域に多くみられる。鹿野山丘陵の北斜面と佐貫丘陵の境界付近にも傾斜の大きな地域があらわれるが、これは丘陵高度の高まりにともない開析谷の侵蝕が急速に増している地域である。

16°～24°の傾斜をしめす地域は、湊川流域ではきわめて狭く、鹿野山丘陵北斜面、佐貫丘陵・大鷲台地などに広く分布する。

16°以下の緩傾斜ないし平坦地は富津台地、小糸川台地、子安台地、湊川台地、岩瀬川台地、八染川台地などの沖積世の河成や海成台地の広がるところであり、とくに富津台地、小糸川台地、湊川台地は小起伏はともなうが基本的には平坦である。当然のことながらこの地域に道路や集落が集中している。これに対して鹿野山丘陵の頂部にも緩傾斜地があり、神社を中核とした集落のほか、牧場、ゴルフ場などがひらかれている。

つぎに各方眼の数値をもとに傾斜数値分布図を作成した。

本図幅地域では4°以下の平坦地は16%を占め、平坦地の割合は「上総大原・勝浦」図幅の17%に比適する。山地・丘陵地の傾斜の大勢を占めるのは、16°から28°の地域で、45%を占めている。32°以上の急傾斜地は7%にすぎず「大多喜」図幅の10%よりも小さく、本図幅地域が緩傾斜地が広いことを示している。



第9図 傾斜値の数値分布

(千葉大学文部教官 川崎 逸郎  
" " 白井 哲之)

## Ⅵ 開 発 規 制 図

「本図幅」は、海岸の変化美をみせる区域と、眺望のきく内陸丘陵部からなる風光明媚な地である。

海岸線及び高宕山、鹿野山を中心とする丘陵地帯一帯は、国定公園もしくは県立自然公園に指定されている。

更に、鳥獣保護区あるいは保安林区域が、本公園地域と重複するように指定されている。文化財は、東京湾に注ぎ込む各河川流域に数多く分布している。

なお、この地域においては、富津地区の埋め立て、東京湾横断橋等の建設が計画され、今後もなお発展が予想される。

これらの開発にあたっては、自然環境との調和及び十分な保全対策が必要である。

### 1. 国 定 公 園

本図幅の海岸一帯と鹿野山山塊周辺が南房総国定公園（富津市1,083ha、君津市586ha）に指定されている。

特に、本公園の表玄関である富津岬は、「関東の天の橋立」とも言われ、第1種特別地域に指定されている。

この岬に発達した海浜植物群落は学術的に貴重なものである。

また、変化にとむ海岸部、東京湾を経て三浦半島を一望に出来る鹿野山及び眺望絶景の九十九谷の丘陵部が第2種及び第3種特別地域に指定されている。公園内陸部全域が特別地域となっており、厳しく開発の規制がなされている。

第1種特別地域は最も規制が強く、原則的に開発が認められず、第2種、第3種特別地域においては、自然環境及び自然景観に大きな影響を及ぼす行為が規制されている。

### 2. 県 立 自 然 公 園 等

県立高宕山自然公園（面積約2,342ha、富津市1,618ha、君津市724ha）のほぼ全域が、本図幅に含まれている。

南房総国定公園に指定されている鹿野山山塊区域を包囲する地域と、ニホンザル生息地として有名な高宕山山塊一帯が指定されている。

本公園地域の全域が普通地域であり、千葉県立自然公園条例により、一定基準をこえる工作物の新築・改築または増築等を行う場合は、知事への届け出が必要となっている。

また、本公園の鹿野山山塊周辺地域の北部一帯とほぼ重複するように、君津近郊緑地保全区域（面積 635 ha）が指定されている。



近郊緑地保全区域は、首都圏の近郊整備地帯において、良好な自然環境を有する地域を緑地として保全することを目的とするもので、本区域においては、建築物その他の工作物の新築・改築または増築等を行なう場合は、知事への届け出が必要である。

### 3. 保安林

本図幅の保安林は、海岸地域及び小糸川と湊川に挟まれた上流丘陵地帯に集中している。海岸線に沿って、飛砂防備、防風、魚つき保安林が連担している。

丘陵地帯の保安林は、そのほとんどが水資源確保を目的とする水源かん養保安林に指定されているが、土砂の流出を防ぐ土砂流出防備保安林と土砂崩壊防備保安林が、丘陵急傾斜地帯に点在している。

この地域の保安林は、水資源確保や災害防止等の重要な役割を果たしているほか、国定公園、県立自然公園の景観を構成している。

これらの保安林は、その指定目的が常に発揮されるよう、維持・管理しておく必要がある。このため、立木竹の伐採、その他土地の形質等変更する行為については、一定の制限が加えられている。

第7表 市町村別保安林面積一覧表

(単位ha)

| 市町村 | 水源かん養   | 土砂流出防備 | 土砂崩壊防備 | 飛砂防備 | 防風   | 水害防備 | 干害防備 | 魚つき  | 航行目標 | 保健   | 水源かん養兼保 | 飛砂兼潮害 | 防風兼魚つき | 計       |
|-----|---------|--------|--------|------|------|------|------|------|------|------|---------|-------|--------|---------|
| 富津市 | 1,048.5 | 46.2   | 37.6   | 1.4  | 42.9 | 0.5  | 27.8 | 37.1 | —    | —    | —       | 114.1 | 6.4    | 1,362.5 |
| 君津市 | 4,513.1 | 308.0  | 1.3    | —    | —    | —    | —    | —    | 2.1  | 23.6 | 254.4   | —     | —      | 5,356.9 |

昭和51年3月31日現在

千葉県農林部林務課調べ

### 4. 鳥獣保護区

本図幅の鳥獣保護区は、国定公園、県立自然公園と重複するように指定されている。

高宕山鳥獣保護区は、ニホンザルの生息地として有名な高宕山山塊一帯が含まれ、富津岬鳥獣保護区は、多種の水鳥が州に集まっている。

第8表 鳥獣保護区一覧表

| 名  | 称        | 所在地     | 区域面積    |
|----|----------|---------|---------|
| 国設 | 高宕山鳥獣保護区 | 君津市、富津市 | 2,500ha |
|    | 鬼泪山      | 〃       | 1,620   |
| 県設 | 富津岬      | 富津市     | 386.8   |

## 5. 国有林

本図幅には、林野庁所管国有林が、鹿野山山塊一帯に1,165ha、九十九谷一帯に245haある。

また、高岩山塊一帯の同庁所管国有林 857 haの大部分が含まれ、県下でも、国有林の多く分布する地域である。

この地域の国有林のほとんどが、国定・県立自然公園、鳥獣保護区、保安林として指定されており、木材資源としての利用のほか、水源かん養、山地災害防止あるいは自然観光資源として、大きな役割を果している。

## 6. 砂防指定地

本図幅の河川は、蛇行が著しい。また、地質がもろく、土砂が流入すると水害などが発生しやすい上総丘陵河川の特徴をみせている。

昭和45年7月の関東地方南部を襲った大雨により、上総丘陵河川上流山地に3,170ヶ所に及ぶ崩壊が発生し、その土量は880万 $m^3$ に達した。

本図幅においては、危険区域である6ヶ所約600haを砂防指定地に指定し、砂防ダム等の災害防止工事を進めるとともに、砂防設備を損傷し、または損傷する恐れのある行為を禁止している。

第9表 砂防指定地一覧表

| 水 系   | 溪 流     | 延 長 (km) | 面 積 (ha) |
|-------|---------|----------|----------|
| 湊 川   | 湊 川     | 2.6      | 10.40    |
| 〃     | 相 川     | 2.3      | 352.84   |
| 〃     | 飛 清 川   | 2.1      | 8.40     |
| 〃     | 志 駒 川   | 2.3      | 9.20     |
| 白 狐 川 | 白 狐 川   | 4.7      | 226.08   |
| 小 糸 川 | 沢 卷 川   | 5.0      | 4.39     |
| 〃     | 鹿 野 沢 川 | 2.1      | 8.00     |
| 計     |         | 21.1     | 619.31   |

## 7. その他

### 一 地すべり防止区域

本図幅の地すべり防止区域は、図幅南部の白狐川及び相川上流の丘陵急傾斜地帯に4ヶ所約205haが指定されている。

これらの区域は、特に地すべりの災害から耕地を守るため指定したもので、開渠、暗渠排水路工等の整備を図っている。

第10表 地すべり防止区域一覧表

| 地 域 名 | 市 町 村 | 指 定 面 積 |
|-------|-------|---------|
| 鹿 原   | 富 津 市 | 44.16ha |
| 金 谷   | 〃     | 75.62   |
| 郷 蔵   | 〃     | 68.43   |
| 高 塚   | 〃     | 17.31   |

### 一 2 海岸保全区域

本図幅は、変化にとんだ海岸線を有しているため、海岸保全区域は多く、その目的も多種にわたっているが、主に津波、高潮あるいは波浪による被害から海岸を防護することを目的に指定されており、離岸堤、消波堤等の防護工事が行なわれている。

第11表 海岸保全区域指定（建設省所管）

| 沿 岸 名 | 海 岸 名 | 地区海岸名 | 延 長 (m) |
|-------|-------|-------|---------|
| 東 京 湾 | 富 津   | 青 堀   | 2,500   |
| 〃     | 〃     | 北 富 津 | 700     |
| 〃     | 〃     | 南 富 津 | 4,460   |
| 〃     | 大 佐 和 | 岩 瀬   | 1,640   |
| 〃     | 〃     | 佐 貫   | 2,700   |
| 〃     | 〃     | 船 端   | 1,850   |
| 〃     | 天 羽   | 東 悪 波 | 550     |
| 〃     | 〃     | 湊     | 1,150   |
| 〃     | 〃     | 竹 岡   | 1,300   |

### 一 3 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域は、急傾斜地の高さが5m以上で、急傾斜地の崩壊により被害を受ける恐れのある人家が5戸以上又は公共的建物等に危険が生ずる恐れのある地域を指定するものである。本地域では、富津市小久保海岸近くの高根区域25,952.67㎡が指定されており、崩壊防止等の工事を進めるとともに、急傾斜地に直接又は間接的に影響を与える行為を制限している。

## 8. 文化財

本図幅は、文化財の調査、整備が比較的良好に進められている地域であり、その箇所数は、埋蔵文化財包蔵地を含め450ヶ所にのぼっている。

その主なものは、第12表のとおりである。

第12表 主要文化財一覧表

| 国指定     | 名称         | 所在地            |                               |
|---------|------------|----------------|-------------------------------|
| 重要文化財   | 神野寺表門      | 君津市鹿野山         | 禅宗様式美をみせる四脚門                  |
| 史跡      | 弁天山古墳      | 富津市小久保         | 主軸長86mの前方後円墳                  |
| 天然記念物   | 竹岡のヒカリモ発生地 | 〃 萩生           | 国道沿いの崖下洞穴中にヒカリモが発生する。         |
| 〃       | 向山フジザクラ樹林  | 〃 海良           | 標高50mの凝灰質泥岩からなる丘陵にフジザクラが群生する。 |
| 〃       | 高宕山猿生息地    | 〃 豊岡他          | 野生ニホンザルの生息地                   |
| 県指定     |            |                |                               |
| 重要文化財   | 神野寺本堂      | 君津市鹿野山         |                               |
| 〃       | 三柱神社本殿     | 富津市竹岡          |                               |
| 〃       | 釈迦涅槃図      | 〃 〃 (松翁院)      |                               |
| 〃       | 木造薬師如来立像   | 〃 湊 (東明寺)      |                               |
| 〃       | 木造菩薩面      | 君津市浜子 (建曆寺)    |                               |
| 無形民俗文化財 | はしご獅子舞     | 〃 鹿野山          |                               |
| 〃       | さんちよこ節     | 〃 〃            |                               |
| 有形民俗文化財 | 馬だし祭り用具    | 富津市西大和田 (吾妻神社) |                               |
| 史跡      | 九十九坊麿寺趾    | 君津市内囊輪         |                               |
| 〃       | 近江屋甚兵衛墓    | 〃 人見 (青蓮寺)     |                               |
| 〃       | 織本花婿の墓     | 富津市富津 (大乘寺)    |                               |
| 〃       | 内裏塚古墳      | 〃 二間塚          |                               |
| 〃       | 絹横穴古墳群     | 〃 絹            |                               |
| 〃       | 飯野陣屋濠跡     | 〃 下飯野          |                               |
| 〃       | 鐘ヶ淵        | 君津市内囊輪         |                               |
| 〃       | 八幡神社古墳     | 〃 外囊輪          |                               |
| 天然記念物   | 環ノ大樟       | 富津市東大和田 (興源寺)  |                               |

天然記念物 鹿野山の大桑 君津市鹿野山(神野寺)  
 富津州海浜植物群落地 富津市富津  
 竹岡のオハツキイチヨウ 竹岡(薬王寺)

### 9. 学術上貴重な自然群

本図幅は、首都圏50km圏に位置し、年々の都市化、工業化の進展による自然環境の変化がみられるが、なお学術的に貴重な自然を多く残しているため、これらの保護を、計画的かつ積極的に図る必要がある。

その主なものとしては、

竹岡のヒカリモ発生地……海食洞内の水溜りにヒカリモが群生している。外界の光によって発光し、黄金色に輝く。

向山フジザクラ樹林……フジザクラ別名マメザクラの群生が標高50mの丘陵に自生している。

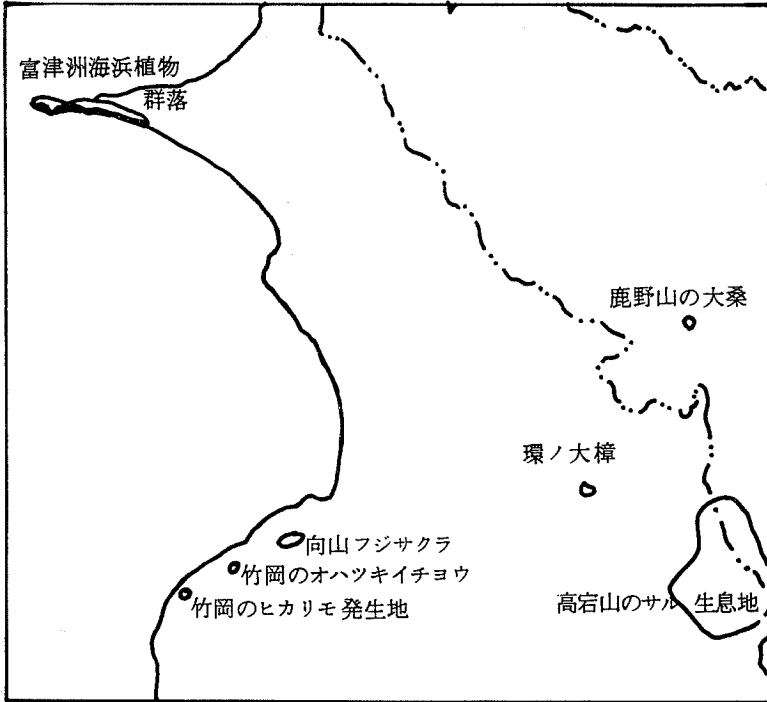
高宕山のサル生息地……高宕山一帯の森林地帯にニホンザルが生息している。

環ノ大樟……クスノキの大木、樹高14.5m、目通り幹囲12mであるが、既に主幹はない。

富津州海浜植物群落地……州の狭い地域に、内湾性及び外洋性の海浜植物群落、海岸性湿原植物群落がみられる。

竹岡のオハツキイチヨウ……樹高18m、目通り幹囲1.1mの大樹

鹿野山の大桑……ヤマグワの老樹、樹高11m目通り幹囲2mである。



第10図 学術上貴重な自然群の位置図

(千葉県企画部企画課 藤井 健司)

#### 参 考 文 献

千葉県記念物所在地図(千葉県教育委員会)

千葉県文化財目録 ( " )

天然記念物緊急調査植生図・主要動植物地図12千葉県(文化庁)

千葉県自然環境保全調査報告書(千葉県環境部自然保護課)

新版 千葉県植物誌(千葉県生物学会編1975)

千葉県の生物1975(「千葉県の生物」編集部編)

千葉県土地利用規制関係図集(千葉県企画部企画課)

## Ⅵ 土地利用現況図

本図幅は、自然条件に恵まれ、農林漁業を主体に発展してきた地域であり、第13表のとおり、土地利用の現況にもその色彩がでている。

君津市は、山林原野58.8%、農地30.4%、宅地8.9%、その他1.9%であり、富津市では、山林原野53.1%、農地38.3%、宅地6.4%、その他2.2%となっている。

しかしながら、本地域は地理的条件に恵まれていること、及び、交通の利便性も年々良くなっていることから、今後の宅地需要は高まるものと予測される。

農地は、東京湾に流入する各河川流域に広がっており、森林が丘陵地帯に分布している。

市街地は、海岸線と平行に走る国鉄内房線沿いに形成されている。

第13表 民有土地利用現況（昭和50年）

（単位：ha）

| 区 分         |          | 市 町 村 | 君 津 市    | 富 津 市    | 計        |
|-------------|----------|-------|----------|----------|----------|
| 総 面 積       |          |       | 31,744.0 | 19,769.0 | 51,513.0 |
| 民 有 地 総 面 積 |          |       | 17,263.0 | 9,855.9  | 27,118.9 |
| 構 成 比（%）    |          |       | 54.4     | 49.9     | 52.6     |
| 田           | 面 積      |       | 3,819.9  | 2,722.2  | 6,542.1  |
|             | 構 成 比（%） |       | 22.1     | 27.6     | 24.1     |
| 畑           | 面 積      |       | 1,440.5  | 1,051.6  | 2,492.1  |
|             | 構 成 比（%） |       | 8.3      | 10.7     | 9.2      |
| 宅 地         | 面 積      |       | 1,527.1  | 630.5    | 2,157.6  |
|             | 構 成 比（%） |       | 8.9      | 6.4      | 8.0      |
| 山 林         | 面 積      |       | 8,812.3  | 4,684.0  | 13,496.3 |
|             | 構 成 比（%） |       | 51.1     | 47.5     | 49.8     |
| 原 野         | 面 積      |       | 1,334.1  | 551.9    | 1,886.0  |
|             | 構 成 比（%） |       | 7.7      | 5.6      | 6.9      |
| 雑種地・他       | 面 積      |       | 329.1    | 215.7    | 544.8    |
|             | 構 成 比（%） |       | 1.9      | 2.2      | 2.0      |

## 1. 農 地

本図幅内の農地は、小糸川、湊川をはじめ東京湾に流入する河川流域に分布している。特に、小糸川下流一帯から富津岬一帯にかけた平坦地に、農地が広がり、気候にも恵まれて、農業生産地帯を形成している。

君津市と富津市の農地は、耕地率 $\left(\frac{\text{耕地面積}}{\text{全面積}}\right)$ が、10.1%及び17.3%（県平均30.6%）であり、また、水田率 $\left(\frac{\text{水田面積}}{\text{耕地面積}}\right)$ は70.1%及び52.6%（県平均59.4%）となっている。

この地域の農業は、水稻を主体としているが、近年、メロン、トマト、イチゴ、花卉のハウス栽培が盛んに行なわれているほか、夏柑の栽培、あるいは椎茸などの特用林産物の生産も行われている。

また、乳牛、豚などの畜産についても、その育成が推進されている。

第14表 農振法による農用地区域面積（市町村別）

（単位：ha）

| 区分<br>市町村 | 農 地 総 面 積 |       |     |     | 農 用 地 区 域 面 積 |       |     |     | 農<br>用<br>区<br>域<br>指<br>定<br>率 |
|-----------|-----------|-------|-----|-----|---------------|-------|-----|-----|---------------------------------|
|           | 総 数       | 田     | 畑   | その他 | 総 数           | 田     | 畑   | その他 |                                 |
| 富津市       | 3,417     | 2,441 | 860 | 116 | 1,763         | 1,469 | 237 | 57  | 51.6                            |
| 君津市       | 3,222     | 2,594 | 511 | 117 | 2,260         | 1,812 | 337 | 111 | 70.1                            |

千葉県農林部農政課

「市町村農業振興地域整備計画書」

昭和51年12月31日現在

## 2. 林 業

本図幅は、従来から林業の盛んな地域である。

本地域における君津市、富津市の林野率 $\left(\frac{\text{林野面積}}{\text{全面積}}\right)$ は、君津市67.5%、富津市63.8%と県平均33.9%に比べ、かなり高い。

本地域の林業は、薪炭生産地として発展してきたが、燃料消費の変化に伴い、現在、薪炭生産はほとんどみられなくなった。

現在、広葉樹が多いが、用材のための針葉樹に林種転換造林を進めているので、今後、木材生産地としての発展が期待される。

第15表 市別森林面積一覧表

（単位：ha）

| 市町村   | 区分 | 総 計    | 国 有 林 | 県 有 林 | 市町村有林 | 民 有 林  |
|-------|----|--------|-------|-------|-------|--------|
| 富 津 市 |    | 12,618 | 1,837 | 318   | 145   | 10,318 |
| 君 津 市 |    | 21,427 | 3,716 | 2,400 | 191   | 15,120 |



第16表 森林資源現況一覧表

(単位: ha)

## 一 1 国 有 林

| 市町村   | 区分 | 総 計   | 天 然 林 | 人 工 林 | 竹 林 | そ の 他 |
|-------|----|-------|-------|-------|-----|-------|
| 富 津 市 |    | 1,837 | 367   | 1,356 | —   | 114   |
| 君 津 市 |    | 3,716 | 1,750 | 1,741 | 2   | 223   |

## 一 2 県 有 林

(単位: ha)

| 市町村   | 区分 | 総 計   | 天 然 林 | 人 工 林 | 竹 林 | そ の 他 |
|-------|----|-------|-------|-------|-----|-------|
| 富 津 市 |    | 318   | 97    | 205   | 1   | 15    |
| 君 津 市 |    | 2,400 | 1,152 | 1,027 | 1   | 220   |

## 一 3 公 有 (市町村) 林

(単位: ha)

| 市町村   | 区分 | 総 計 | 天 然 林 | 人 工 林 | 竹 林 | そ の 他 |
|-------|----|-----|-------|-------|-----|-------|
| 富 津 市 |    | 145 | 97    | 46    | 0   | 2     |
| 君 津 市 |    | 191 | 40    | 147   | 1   | 3     |

## 一 4 民 有 林

(単位: ha)

| 市町村   | 区分 | 総 計    | 天 然 林 | 人 工 林 | 竹 林 | そ の 他 |
|-------|----|--------|-------|-------|-----|-------|
| 富 津 市 |    | 10,318 | 7,349 | 1,959 | 577 | 433   |
| 君 津 市 |    | 15,120 | 7,537 | 6,284 | 755 | 544   |

千葉県農林部林務課

「地域森林計画書」

注: 各比率算出根拠数字

山林原野面積は「地域森林計画書」(林務課資料)を、農地面積については「市町村農業振興地域整備計画書」の数字を参考にした。

(千葉県企画部企画課 藤井健司)

1977年3月 印刷発行

房総半島総合開発地域

土地分類基本調査

# 富 津

編集発行 千葉県企画部企画課

千葉県市場町1番1号

印刷 原田印刷所

千葉県新千葉1-12-18